

科目名	平和学	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	佐々木 寛	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-01-A-1-210010	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究方法を体得していること			
授業の目的	平和学は「ジェノサイド」や「世界戦争」といった、20世紀の暴力をめぐるさまざまな人間の経験から生成し、展開を遂げてきた学問運動である。それゆえ平和学は、一貫して、既存の社会構造や世界秩序を批判的に見詰め、その代案（オルタナティブ）を模索しつづけてきた。そしてまた、既存の政治学・社会学・経済学などの社会科学のみならず、時には自然科学をも横断した包括的な認識枠組みから問題の核心に肉迫し、むしろ既存の知識体系自体に大きなインパクトを与えてきた。講義の前半では、戦争と平和、あるいは暴力の問題そのものに関する知の蓄積を広く「平和学」の中に位置づけ、それら一連の思想や理念、理論などを、それらが生成してくる歴史的な背景とリンクさせながらふりかえってみたい。さらに後半では、現在の「グローバル化」にともなう新しい問題群が平和学につきつける挑戦の意味を明らかにしたい。平和学がこれら問題群といかに格闘していくのか、またなぜ平和学という広い枠組みでなければこれらの問題に対応できないのか、つまり平和学の＜批判的構想力＞を今後どのように鍛え上げてゆくべきなのかについて、共に考えてみたい。				
学修到達目標	平和学のアジェンダは常に展開するのであり、参加者は最終的には自分なりの「平和学」を構築してほしい。批判的思考を身につける。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	「平和」とは何か ― 平和学前史 ①
第2回	「平和」とは何か ― 平和学前史 ②
第3回	「平和」とは何か ― 平和学前史 ③

第4回	平和学の生成 — 20世紀の時代経験 I (ジェノサイド) ①
第5回	平和学の生成 — 20世紀の時代経験 I (ジェノサイド) ②
第6回	平和学の展開 — 20世紀の時代経験 II (構造的暴力) ①
第7回	平和学の展開 — 20世紀の時代経験 II (構造的暴力) ②
第8回	世界秩序の構造変動と平和学の新地平 ①
第9回	世界秩序の構造変動と平和学の新地平 ②
第10回	新世紀の平和学 — 21世紀「平和秩序」形成のために ①
第11回	新世紀の平和学 — 21世紀「平和秩序」形成のために ②
第12回	日本の平和主義の課題と平和学
第13回	新しい「文明」を求めて ①

第14回	新しい「文明」を求めて ②
第15回	新しい「文明」を求めて ③
第16回	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間 勧められた文献や映像資料などの閲覧
【復習】時間・内容	2時間 勧められた文献や映像資料などの閲覧

成績評価	
評価基準・方法	基本的に学期末試験で判定する（100%）。しばしば講義の最後に、コメントカード（質問やコメント、感想を書いてもらう）を作成してもらい、それらは講義の改善に役立てるだけでなく、受講者の参加姿勢を見る材料とする。基本的に最終筆記試験の成績によりすべての評価を決定し、出席も重視しないが、このコメントカードの内容は成績に加味する。また、試験は、個別的な知識よりはそれをもとにした思考力（学期中にどれだけ考えたか）を重視した問題を出題する。
フィードバック方法	最優秀の答えは、後進のためにも本人の了解を得て公表する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	反転学習／ディスカッション、ディベート／グループワーク
教科書/参考書	共通の教科書は、日本平和学会編『平和を考えるための100冊+α』（法律文化社）。参考書は、授業中、それぞれのサブテーマに即して随時指定する。必読参考文献の一例として、高柳先男『戦争を知るための平和学入門』（ちくま書房）、高島通敏『平和研究講義』（岩波書店）、日本平和学会編『平和研究第26号—新世紀の平和研究』（早稲田大学出版部）、君島東彦編『平和学を学ぶ人のために』（世界思想社）、岡本三夫・横山正樹編『平和学のアジェンダ』（法律文化社）、J. ガルトウング『構造的暴力と平和』（中央大学出版部）、U. ベック『危険社会』（法政大学出版局）、P. ハースト『戦争と権力』（岩波書店）などを挙げておく。
受講上の留意点等	平和学は、いわゆる「文系」「理系」の区分をこえた講義科目である。個々の専門科目を学習する前の基礎的な知的訓練を行う。
JABEE	